

# 徳島大学歯学部第三期卒業生の 佐伯健三 (芸名サエキけんぞう) と申します。

1958年千葉県市川市生まれ 徳島大学歯学部卒。  
作詩家&プロデューサー。1980年ハルメンズでデビュー、  
86年パール兄弟「未来はパール」で再デビュー  
主な著書「歯科医のロック」(角川書店)



## サエキけんぞう

僕は千葉県出身、78年歯学部入学。その後も、千葉高校時代の仲間とバンドを組み、教養課程を終えた時に、小児歯科西野教授などの御助力を得て、1年間、公式(ー)に休学許可をいただき「ハルメンズの近代体操」他2枚のアルバムをリリース。その後復学し、1985年に卒業後、日大松戸歯学部補綴学第1教室に入局し、現在も在籍するにはしております。入局して2年、今度はパール兄弟で再デビュー、現在までに10枚以上のアルバムをリリース。

生業の中核は、作詞であります。モニング娘の幻のデビュー曲「愛の種」など、現在までに約500作品を提供し続けております。2003年には、なぜかフランスでソロデビュー。NHKソフトバンク司会、「平成教育委員会」セミレギュラー等のTV出演もあり。

「きつと佐伯は東京でつまじいことや」とるんやろっつ。」と二方笑うる同輩達の顔が浮かびますが、大変困難な人生航路であります。とてもじゃないけれども、この分野について、就職を指南したいという気持ちにはなれません。

しかし、「13歳のハローワーク」ではないですが、現場に行きますと思わぬ職業があるものとは感じます。音楽業界でしたら、著作権管理とか。就職は外から考えず、内に入って模索することができれば、もつというんな選択肢があるのには思っています。

イルがめざされていくような気がします。しかし、増えないものもあります。命の時間でありまして。僕らの時間は相変わらず24時間。一日にCDは聞けて20枚です。その数は未来永劫変わりません。



増大する情報 変わらない生活時間。どうなっちゃっんでしょっつ。求められていくのはある種生活のクオリティを高めるといふ命題ではないでしょうか? 時間内の生活密度を高めるといふこと。そこをテクノロジーや産業の接点を見出すことが、市場のポイントになってくるのでしょっつ。

交友関係があふれる東京の空間では、創作に係わる力は育てることができなかったらっつな、今では素直に思えるのです。

でもクオリティねえ? そっついわれても?と思われる方も多いでしょう。簡単そつでいて、これは意外と難しい話しなのです。

僕にとつて、密度の濃かった空間は、歯学部時代に過ごした蔵本のアパート、通称「墓場荘」での夜や、常三島での生活です。その体験が、後に作詞をしたりするメディアへの集中力を養ってくれたのです。シンブルであったこと、それが自分史ではクオリティが高かった時間なわけですね。